紹 介

平 野多恵著

コレクション日本歌人選 おみくじの歌

権 守 紀

は高校で古文を教える身である私にとって、これは大きな問題意識 に映っているのだろうか。平野氏から歌占について直接学び、 だが、その人々の目に、おみくじに記載されている和歌はどのよう 写真を撮ったり、財布にしまったり、おみくじを結んだりするわけ その表情は、 のひとつとなっている。 行の先々で寺社を巡ると、多くの人々がおみくじを引いてい 結果はどうであれ、皆嬉々とした表情である。 その後、 現在 る う。

させてくれる著書である。また、本大学院のプロジェクト型授業の で用いられた和歌三十二首を平野氏が厳選し、 平野氏は近年、 ない世界』 歴史やおみくじの和歌をどう読み解くかなど、その奥深さを再発見 おみくじのヒミツ』(河出書房新社 できるカードタイプの書物を著した。また、『神さまの声をきく 「歌占カード 環として、 このたび、平野多恵氏によって『おみくじの歌』が刊行され (天祖神社 に出演したりと、 東京都板橋区にある天祖神社と協同で歌占を創作した 歌占 猫づくし』(夜間飛行 二〇一六)では、実際に歌占 和歌みくじの魅力を精力的に発信している。 二〇一五から)、TBS系列の 多方面で活躍している。 二〇一七)では、 自分で歌占の体験が 7 おみくじの ツコの知ら 例えば、 た。

は、

あり、 告げを本人が直接受け取る託宣歌が勅撰和歌集に入集され、鎌倉時 じとして発達したことである。これが現在の和歌みくじの 夷運動や明治維新の神仏分離令を契機として、神社による和歌みく なども歌占として登場するようになったという。ここで注目すべき この流れは江戸期の出版文化とともに発展し、 既に書物として歌占用の歌が纏められていたというから驚きである。 代の説話には巫女を通して神のお告げを受ける歌占が行われたとい 両者の関係は切ってもきれない関係にある。平安時代には、 つまごみに八重垣つくるその八重垣を」から始まる神の和歌であり 和歌みくじのルーツは、 中でも和歌について全く学んだことがない方におすすめできる、 方が和歌に親しみが持てるように配慮されたシリーズだが、本書は である。 の入門書と言える。その理由を挙げつつ、内容を紹介していきたい まず、 そして本書は、 出版物という形で人々に受容されていた歌占が、幕末の尊皇攘 そして室町時代には、くじ形式の歌占が行われ、室町末期には その歴史的展開がわかりやすく説明され おみくじやおみくじの和歌の歴史的変遷がわかる点である 笠間書院の「コレクション日本歌人選」は、 和歌みくじに用いられる和歌の魅力に迫った一 スサノオノミコトの「八雲立つ出雲八重 安倍晴明や百人一首 ・幅広い る。 ル 神の、 ₩

和歌に至るまで、 みくじの 次に、 京都府宇治市にある三室戸寺は、 和歌を 和歌みくじの多様性と個性の面白さである。本書では、 『古事記』『日本書紀』 系統性と多様性に留意して編集されている。 『源氏物語』 から現在の社寺独自の に収められてい 創作

る恋の歌を和歌みくじとして採用している。解説によると、このおる。このように、社寺がそれぞれの個性を発揮しつつ工夫していす。これを契機に『源氏物語』を学ぶということも期待できるだいう。また、京都府伏見区にある長建寺には、中国伝来の漢詩みくじを、わかりやすく和歌にしたおみくじがあるという。その和歌の文言には、現代的な表現が使われており、解釈を助ける工夫がしてある。このように、社寺がそれぞれの個性を発揮しつつ工夫している。が記によると、このおることがわかるのも本書の魅力である。

げの内容である。」とはっきり述べている。同様に、巻末の「おみかされる点である。例えば、鎌倉宮のおみくじ歌「おしなべて物を集」の西行歌である。おみくじに記載されている運勢は「向大吉」なのかはわからない。平野氏は本書で、「理由は自分で考えるしかないが(中略)おみくじで大切なのは吉凶などの運勢の表示ではなく、神さまのお告みくじで大切なのは古凶などの運勢の表示ではなく、神さまのお告める。当後は、おみくじの歌を通して、自分の心を見つめることに気付

お告げとして示唆を与えてくれるのである。は千年以上もの時を超えて脈々と生き続け、いまもおみくじのは千年以上もの時を超えて脈々と生き続け、いまもおみくじのはがない。さまざまな角度から読み解くにふさわしい象徴的な

くじの歌概観」にも

と解説されている。これはつまり、

おみくじの和歌を受け取った者

触れる心構えとして最も大切なことだと改めて気付かされる。読み解いてみること。これが和歌を解釈する醍醐味であり、和歌にうことを示唆している。一首の和歌を、多様な読みの可能性の中でが、自分の心に照らし合わせてどのように解釈するかが大切だとい

を見つめる人が増えるきっかけとなるはずである。読み応えがある。本書は、おみくじを手に取った時、心静かに和歌える工夫が詰まっている。平野氏による一首一首の解説も面白く、

本書には上記以外にも、おみくじの歌を通して和歌の面白さを伝

おうと心に決めた。相手は高校二年生である。部活動では中心学年

最後に余談になるが、本書を読んだ後、

勤務先の高校で歌占を扱

になった気持ちで、その生徒にアドバイスをした。生徒は納得したどう考えても悪いようにしか解釈できなかった様である。私は巫女ような解釈ですか。」と不安そうな表情で近づいてきた。どうやら、業を締めくくった。授業後、古典の苦手な生徒が「この歌は○○の業を締めくくった。授業後、古典の苦手な生徒が「この歌は○○の、来年には受験が迫っている。恋愛も悩みの種であろう。であり、来年には受験が迫っている。恋愛も悩みの種であろう。

と、和歌の素晴らしさを早速実感した瞬間だった。

ようで、「なるほど、

和歌って面白い」と目を輝かせていた。

(ごんもり・まさのり 平成二十五年度大学院博士前期課程修了)